

4 「野洲川放水路 通水40周年記念」展覧会 での情報収集結果

4-1 野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館） 野洲川の今昔物語

- ・ 10年に1回の野洲川の氾濫の歴史。
- ・ 昭和28年の洪水について水害、土木工事を中心にまとめられていた。
- ・ 野洲川が1本になったことはこの40年の間に分かっていたが、いつ、どんな風にということは、VTRを見て初めてわかった。
- ・ 現在の野洲川が造られた経緯についての展示が多かった。
- ・ 天井川の改修を長年の念願で始めてみたら、遺跡などがでてきて、やはり工事が始まってなかなか進まなかったことが歯がゆかった。
- ・ 暴れ川として人々を恐れさせたが、農業用水や酒等の生産、漁場として様々な恵みをもたらしていた。
- ・ 守山の浮気町では湧水の利用として、ポンプアップ後に配水し、鯉や小魚が一角に生息している地域がある。



4-2 守山市立埋蔵文化財センター 野洲川流域の歴史と文化のひとこま ～服部遺跡の調査～

- ・ 遺跡の発見調査についての展示であった。
- その他、工事の概要等一般的な野洲川の改修についての説明があった。



(チラシ画像は公式サイトより)

4-3 守山市ほたるの森資料館 野洲川左岸の水理と地質

- ・地質から見える天井川の特徴（天井川の特徴 花崗岩、微高地等）。
- ・草津川改修で水路が枯れて、コイを移動？
- ・天井川としての野洲川のことを勉強しに行っただけなのに、
周囲の地理や歴史、生態系についても併せて勉強でき、有意義な催しだと思った。
- ・野洲川放水開始により守山市の湧水が止まってしまったことを受け、その後に行われた草津川の工事では、
周辺の湧水が止まってしまうことが簡単に予想できたはずなのに、草津川の切替え後に周辺の川の湧水が
とまって「なぜこんなことに？」と驚いているところが残念に思えた。
- ・湧水が出なくなったという話題があった。
- ・天井川改修はホタルにとって大ダメージ。

4-4 栗東歴史民俗博物館 野洲川と栗東のくらし

- ・野洲川に無数の堰と、栗東の水利用（水論(すいろん)等）。
- ・野洲川の水は生活とともになくてはならないものであった。
今も水利組合があるが、栗東～守山にかけて、野洲川の水は農繁期だけでなく、
一年間必要としている。
- ・水争いによって死者や怪我人が出たことに驚いた。
以前から自分たちの生活のため、水の重要性がわかる。
- ・水論、水争いについて、古地図、書物が展示されていた。
- ・野洲川水系の用水について、学芸員の講演を聞いた。一ノ井、中ノ井、今井の3用水水論が発生。
特に最上流の一ノ井から下流の今井への分水問題が頻発していた。
- ・野洲川からの中ノ井川が天井川化しなかったのは、水運との関係からか？
- ・ため池の成り立ちや湧水の利用について調べてみたい。

4-5 展覧会を通じての意見交換

- ・歴史についての展示が多く、暮らしの面、負の側面、
湧水がなくなったことなどについてまとめられている訳ではなかった。
- ・湧水がなくなったことは水道の普及のせいで、あまり着目されなかった？
- ・天井川の平地河川化で、南流側で地下水が枯れ、北流側で金気だらけになったと感じる。
- ・防災の恩恵がクローズアップされて、改修後の暮らしの変化はほとんど調べられていないのではないかと。
江戸時代の野洲川の水利用の歴史を学んだ。

特集展示「野洲川と栗東のくらし」

会期：令和元年5月25日(土曜日)から
7月15日(月曜日・祝日)まで

開館時間：9時30分から17時までに(入館は16:30まで) 入館料：無料
会期中の休館日：毎週月曜日(7月15日を含む)

主催：栗東市、栗東市教育委員会

協力：野洲市歴史民俗博物館、守山市ほたるの森資料館、守山市立歴史文化財センター

関連企画
・展示期間：8月15日(土曜日) 14時
・野洲川流域展覧会(第2弾)
「江戸時代の栗東の村々と水利～野洲川水系を中心に～」
日時：8月22日(土曜日) 14時 講師：中川 敏之 さん
参加費：200円 (税別)



栗東歴史民俗博物館
滋賀県栗東市小野223-8
<http://www.city.ritto-lake.jp/museums/>
TEL. 077-554-2733 FAX 077-554-2755